

日商簿記1級&全経上級ダウンロード講座 工原 No.15【予算実績差異分析】

収録日：平成25年9月21日

【出題実績】

日商簿記1級 116回、128回、131回
全経簿記上級 165回

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	6	41	39	
総額（項目別）分析 直接	×	◎	◎	
総額（項目別）分析 直接標準	×	×	◎	
純額（要因別）分析 直接	×	◎	◎	
純額（要因別）分析 直接標準	×	×	◎	
マーケットシェア分析	△×	◎	◎	
セールスマックス分析	×	◎	◎	
マーケット&セールスマックス分析	△	◎		

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

日商・全経とも各回比較的簡易な問題が出題されています。

営業所長の目線で考えれば理解しやすい項目です。

ボックス図に頼らずに処理できるようにしましょう。

直接原価計算のPLを予算実績対比してみよう

	予算	実績
売上高	48,000	42,500
変動費	12,000	13,000
貢献利益	36,000	29,500
固定費	30,000	30,000
営業利益	6,000	△500

以下の資料より、(1) 総額分析の売上高数量差異、(2) 純額分析の貢献利益数量差異を市場占拠率差異と市場総需要量差異とに分析しなさい。

- イカ焼きセットに関する年間予算と実際発生額

	予 算	実 際
販 売 量	600 個	500 個
販 売 価 格	@ 80 円	@ 85 円
貢 献 利 益	@ 60 円	@ 59 円
シ ョ ア	25%	20%

- 期首、期末に仕掛品、製品はない。
- 不利差異については金額の前に△で表示する。
- シェア（市場占拠率）

予算実績差異分析

BOX図に頼らないようにしよう（最低限のみ）

（予算売上）48,000－（実際売上）42,500＝5,500（不利差異）

< 売上高数量差異 $-100 \times 80 = -8,000$ （不利差異）

< 販売価格差異 $500 \times 5 = 2,500$ （有利差異）

< 変動費数量差異 $-100 \times 20 = -2,000$ （有利差異）

売上高の数量差異が不利なら、変動費の数量差異は有利に決まっている
 変動費の数量差異管理しても意味ない。であれば貢献利益で差異分析すれば良い

< 予算貢献利益 36,000 円

< 実際貢献利益 29,500 円

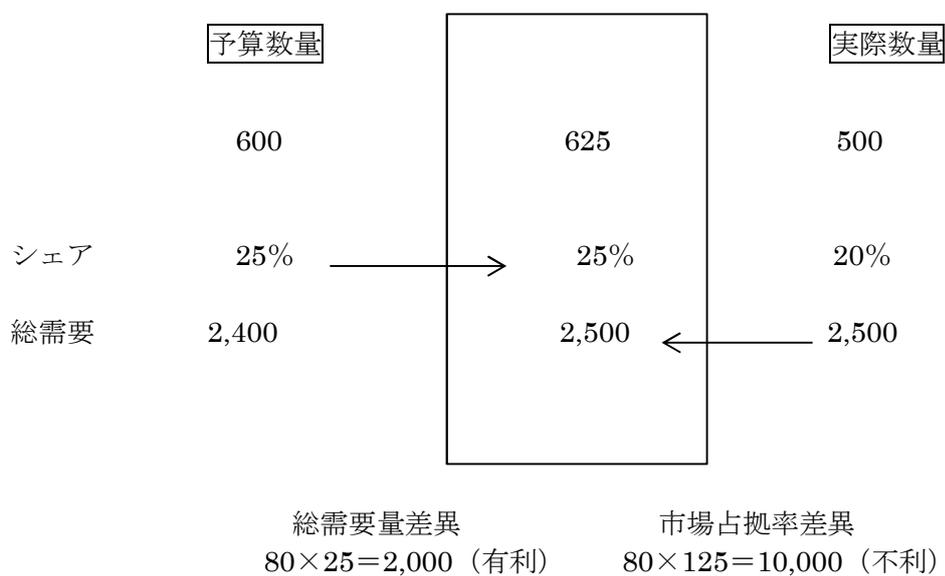
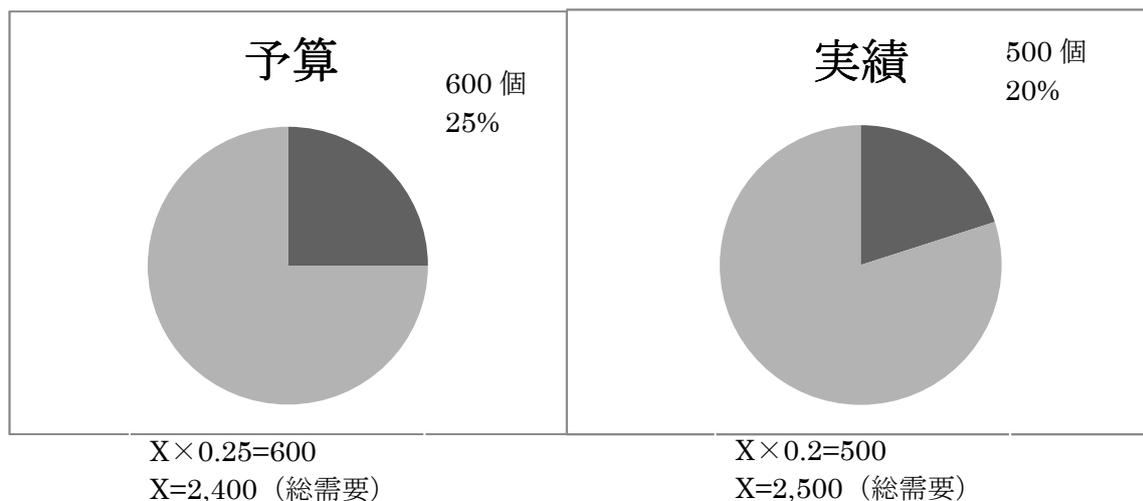
6,500 円の不利差異

< 貢献利益数量差異 $100 \times 60 = 6,000$ （不利差異）

< 販売価格差異 $500 \times 5 = 2,500$ （有利差異）

< 変動費差異 $500 \times 6 = 3,000$ （不利差異）

数量差異 8,000 円の詳細分析（価格は予算を用いる）販売価格 80 円



ちなみに貢献利益の数量差異の詳細分析は

<p>総需要量差異 $60 \times 25 = 1,500$（有利）</p>	<p>市場占拠率差異 $60 \times 125 = 7,500$（不利）</p>
---	---



もしも、予定通り 25% だったら 625 個売れたはずだな。それで分析してみよう。

ここからダウンロード講座になります。

普通は単品販売ではないですね。お好み焼きも売ってみましょう。

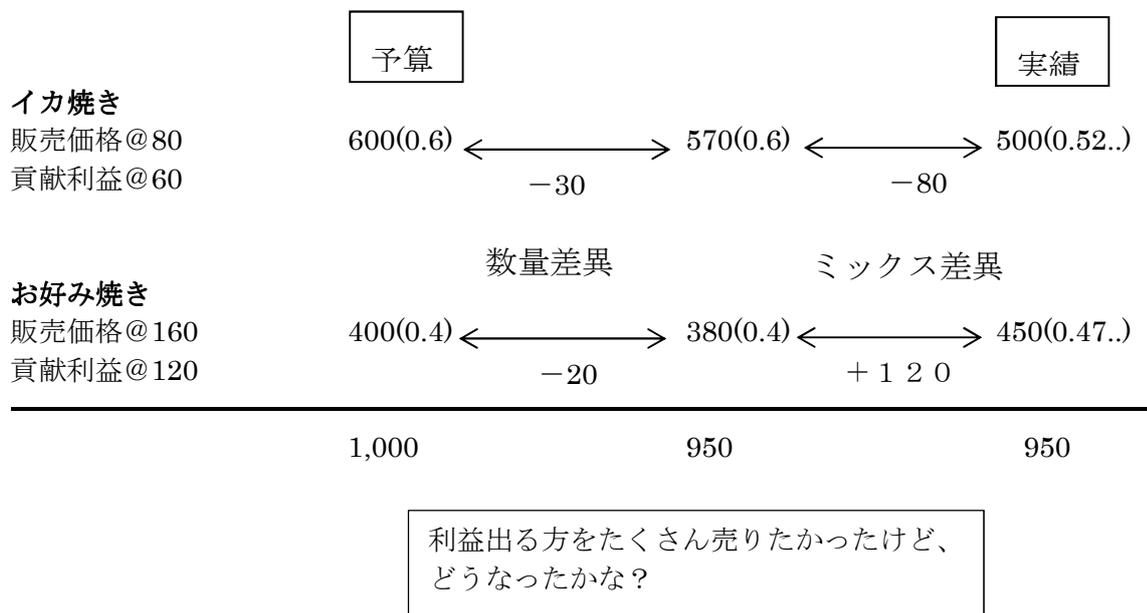
以下の資料により、(1) 総額分析の売上高数量差異、(2) 純額分析の貢献利益数量差異をセールス・ミックス差異と数量差異とに分析しなさい。

- イカ焼きとお好み焼きに関する年間予算と実際発生額

	イカ焼き		お好み焼き	
	予 算	実 際	予 算	実 際
販 売 量	600 個	500 個	400 個	450 個
販 売 価 格	@ 80 円	@ 85 円	@ 160 円	@ 155 円
貢 献 利 益	@ 60 円	@ 59 円	@ 120 円	@ 113 円

- 期首、期末に仕掛品、製品はない。
- 不利差異については金額の前に△で表示する。

予算実績差異分析～詳細（数量差異を詳細に分析）



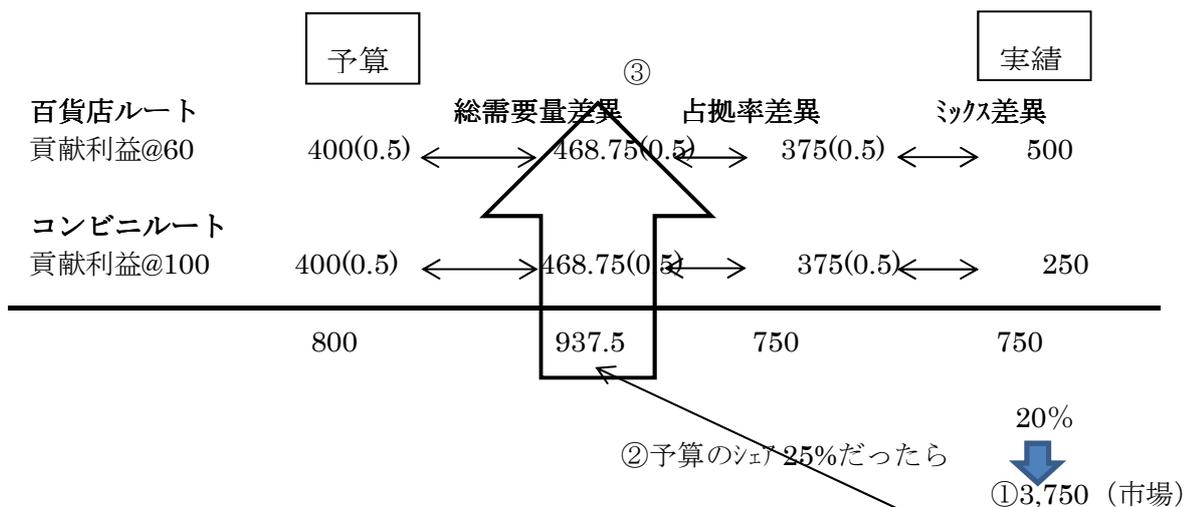
急成長で、百貨店とコンビニでも取扱いが決まりました。

以下の資料により、純額分析の貢献利益数量差異をセールス・ミックス差異、市場占拠率差異、市場総需要量差異に分析しなさい。

- イカ焼きを生産・販売し、販売ルートとして百貨店ルートとコンビニルートの2つがある。
- イカ焼きに関する年間予算と実際発生額

	百貨店ルート		コンビニルート	
	予算	実際	予算	実際
販売量	400個	500個	400個	250個
販売価格	@150円	@170円	@180円	@180円
貢献利益	@60円	@80円	@100円	@95円

- 期首、期末に仕掛品、製品はない。
- イカ焼きの市場占拠率は予算が25%、実際が20%であった。
- 不利差異については金額の前に△で表示する。



そもそも、実際の売上数量が当初の構成費だったら⇒ミックス差異
 実際の市場で予算通りのシェアを営業が取ってたら⇒占拠率差異
 予算の需要との差は⇒総需要量差異

全経上級の165回にチャレンジしてみましよう (20~30分)